

「今月の1枚」

イノシシ（イノシシ科） *Sus scrofa*

シイの実を食べているイノシシの幼獣



2019年は亥年ですが、イノシシは森林や草地に生息する偶蹄類です。

日本語の古い呼び名は「𪛗（イ）」で、肉を意味する古語「シシ」とともに「イのシシ」と呼ばれたのが語源とされています。

イノシシの種としての分布域はアジアからヨーロッパとアフリカ北部ですが、各地で家畜化されて、ブタとして飼育されています。

日本では本州、四国、九州に亜種ニホンイノシシ *S. scrofa leucomystax*、南西諸島に亜種リュウキュウイノシシ *S. scrofa riukiuanus* が分布しています。

雑食性で、おもな餌は植物の根、地下茎、果実、昆虫、ミミズ、ヘビなどであり、食性の幅が広いことが知られています。

近年は国内各地で個体数が増加して、農作物に被害を及ぼすことが問題となっていますが、江戸時代にはイノシシの農地への侵入を防ぐためにシシガキ（石垣）が作られていました。

通常は年に1回繁殖し、春に仔が生まれます。幼獣には背中に縦の縞模様があり、ウリボウと呼ばれます。

写真は地面に落ちたシイの実を食べているイノシシの幼獣です。

（写真・文：佐藤重穂 2011年11月1日高知県中土佐町にて撮影）

（No.282 2019.4.2 掲載）